

木柄 WOODEN HANDLE

900



スタンダード WOODEN HANDLE

PRICE-900

TYPE		L mm	ヤスリ 適応サイズ File-Length	kg-box	BOX pcs	ITEM NO.
ミニ	SS	90L	φ 13A	100 ~ 150mm	1.0	150
小小	SH	90L	φ 20A	150mm	0.24	10
小	S	90L	φ 23A	150mm	0.24	10
中	M	110L	φ 23A	200 ~ 250mm	0.32	10
大	L	135L	φ 26A	250 ~ 300mm	0.5	10
特大	LL	150L	φ 30A	300 ~ 400mm	0.7	8

■一般的に使用される廉価版の木柄です。

ネジ式タイプ SCREW INLAID WOODEN HANDLE

TYPE		L mm	ヤスリ 適応サイズ File-Length	kg-box	BOX pcs	ITEM NO.
ミニ	SS ④	100L	φ 28A	150mm	0.4	10
小小	SH ⑤	115L	φ 32A	150 ~ 200mm	0.6	10
小	S ⑥	115L	φ 32A	200 ~ 250mm	0.6	10
中	M ⑦	130L	φ 35A	250 ~ 350mm	0.8	10
大	L ⑧	130L	φ 35A	300 ~ 400mm	0.8	10

■ヤスリのコミ部に捻りながら差し込みますと、ヤスリがしっかりと固定され、作業性が高まります。

プラスチック柄 PLASTICS HANDLE

901



ネジ式タイプ SCREW INLAID PLASTIC HANDLE

PRICE-901

TYPE		L mm	ヤスリ 適応サイズ File-Length	kg-box	BOX pcs	ITEM NO.
小	S	95L	φ 28A	≤200mm	0.8	8
中	M	110L	φ 31A	250mm	1.1	8
大	L	120L	φ 34A	≥300mm	1.5	8

■ヤスリのコミ部に捻りながら差し込みますと、ヤスリがしっかりと固定され、作業性が高まります。

■製作例 (SAMPLE)



サイズ・形状など用途に応じて、オリジナル品を作製することも可能ですので、ご相談下さい。

精密ヤスリ(丸φシャンク用)
FOR Rounded Shank Handle

やすり八題 ① 荏山 信行

仁方は、昔は新潟とも呼ばれていた。くしくも新潟もやすりの産地である。

仁方やすりは、大阪から製法を導入したことに始まる。

「仁方は特別やすり工業がこの地方で盛んになる立地条件はなかったとみてよい」といわれ、文政二年当時職人は、大工、鍛冶、桶屋、木挽、綿屋をいれてわざか八人であったという。

環境には恵まれていなかったが、技術は確実に受け継がれた。明治になつて、仁方村の坂本幸兵衛が、東京で開催された第二回内国勧業博覧会（明治十四年）に「黒焼横目鑓（やすり）」三本を出品している。黒焼横目鑓とは、单目で焼入れ後仕上げ処理をしていない、黒いやすりのことではないだろうか。

このように、やすり技術は実を結び、明治十八年の「農商工申合規約」の実践によって、より発展していくことになる。その規約には、「勤勉及節儉ノ事」、「粗製濫造ノ幣ヲ矯止スル事」、「製品ヲ改良シ流行品ニ意ヲ注ク事」とうたっている。

仁方と新潟

「昔ハ鑓ト申セバ越後（新潟）鑓ト申シタ位デアッタ」といわれていたように、燕市（新潟）のやすりは仁方より有名であった。

その歴史は古く、元禄年間に鋸鍛冶が、出雲の玉鋼を使用して、鋸の目立て用刃鑓の製法を伝えたのが始まりといわれている。当時、燕では和釘（くぎ）を作つており、この和釘職人たちがやすり技術を受け継ぎ、発展させた。

明治四十四年のやすり生産量は三百万本と全国の八割を占め、日本一の産地となった。仁方は四十四万本の生産量に過ぎなかつた。しかし、大正六年ごろの大戦の好況に伴い、粗製乱造の弊に陥り、燕やすりの声価は失墜する。

昭和十年には、仁方やすりと「両刃やすり訴訟」が起つて、燕側が勝訴したという。吳地裁にも新潟地裁にも両刃やすりの訴訟の記録はなかつた。

（広島県立西部工業技術センター主任研究員＝吳市）

緑地帯 3. 10. 3 中国新聞より